

COLUMN | 業務効率化 | 2026.07.11

ワークフロー自動化ツールとは何か

繰り返し作業をなくしてチームの時間を取り戻す考え方

Make・n8n・Zapierなどのワークフロー自動化ツールを使えば、プログラミング不要でアプリ間の繰り返し作業をつなぎ、自動で流せます。本資料では仕組みとツール比較、中小企業が最初の一步を踏み出すための考え方を整理します。

株式会社DnD | <https://dnd-inc.jp/>

この資料の要点

- ・ワークフロー自動化ツールは「トリガー→アクション」の連鎖でアプリをつなぎ、繰り返し作業を自動化する。
- ・Make・Zapier・n8nが代表ツール。手軽さ・柔軟性・セキュリティでそれぞれ強みが異なる。
- ・「週3回以上手でやっている作業」を起点に1つ選んで試すのが最初の一步。

ワークフロー自動化ツールとは何か

ワークフロー自動化ツールとは、「何か起きたら（トリガー）、別のアプリで何かをする（アクション）」という連鎖を、コードを書かずにビジュアルで組み立てられるサービスです。

たとえば次のような流れを、画面上の設定だけで自動化できます。

- ・Googleフォームに問い合わせが届く → スプレッドシートに転記 → Slackに通知
- ・毎朝9時に売上データをGoogleスプレッドシートから取得 → 整形してメールで送信
- ・受注メールが届く → 請求書テンプレートにデータを入力 → PDFで保存

代表的な3ツールの違い

Zapier——手軽さ重視の入門向け

6,000以上のアプリ連携に対応し、設定UIがもっともシンプルです。「まずワークフロー自動化を体験したい」という段階に最適。無料プランは月100タスクまで。

Make（旧Integromat）——柔軟性と視認性の高いミドルレンジ

フロー全体をキャンバス上に視覚的に描けるため、複雑な条件分岐やデータ変換も把握しやすい。無料プランで月1,000オペレーションまで利用可能。

n8n——セキュリティ重視・セルフホスト可能な上級者向け

オープンソース版があり、自社サーバーへのインストールに対応。社内データを外部サービスに流したくない場合や、カスタムロジックを組み込みたい場合に選ばれます。

ツール選びより先に「何を自動化するか」を決める。ツールは後から変えられるが、自動化の対象を決めないと何も始まらない。

どの業務から始めると効果が出やすいか

次の条件を2つ以上満たす作業を探してください。

- ・週に3回以上繰り返している：頻度が高いほど自動化の恩恵が大きい。
- ・手順が毎回ほぼ同じ：判断が不要な定型作業は自動化しやすい。
- ・複数のアプリをまたいでいる：「A→コピー→B」という流れがある場所がツールの出番。
- ・ミスが起きると困る：転記ミスや通知漏れが問題になる業務は優先度が高い。

生成AIと組み合わせるとどう変わるか

2026年現在、Make・Zapier・n8nはいずれも生成AIと直接連携できます。これにより単純な転記を超えた「考える自動化」が可能になります。

- ・問い合わせメールをAIで分類・要約してから担当者に振り分ける
- ・商品データをスプレッドシートから読み込み、AIが商品説明文を生成してECサイトに投稿する
- ・会議メモをAIで整理し、To Doリストとして自動登録する

最初の一步——3ステップで始める

- ・① 自動化したい作業を1つ決める：上記の条件に当てはまる業務を1つだけ選ぶ。
- ・② ツールの無料アカウントを作り、テンプレートを探す：よく使われるフローのテンプレートをそのまま動かしてみる。
- ・③ 1週間運用して効果を測る：節約できた時間・ミスの件数を確認し、次の自動化候補を探す。

株式会社DnDでは、ワークフロー自動化を含む業務効率化の設計・構築を承っています。

「どの業務から手をつければよいか」という相談からお気軽にどうぞ。ご相談・お見積りは無料です。

<https://dnd-inc.jp/contact.html>